



令和7年7月25日 第1086号

方面	東方Seikin-PJ	(1面)
1師団	総合水防訓練	(2面)
12旅団	旅団訓練検閲	(3面)
1施設団	創隊記念行事	(4面)
関東補処	創立記念行事	(4面)
東混団	新隊員前期教育修了	(5面)

東方Seikin-PJを設置

生活・勤務環境の改善・魅力化

方面隊では全ての隊員が高い士気と誇りを持ちながら、個々の能力を発揮できるようにすることを目的とした「東方生活・勤務環境の改善・魅力化プロジェクト（以下「東方Seikin-PJ」という）」を設置し、5月30日に「第1回東方Seikin-PJ」を実施、東方における生活・勤務場所の整備要領等を具体化した。

この施策は防衛省が取り組んでいる「自衛官の処遇、生活・勤務環境の改善」の一環である。本施策により今年度は生活隊舎の全居室を、1台のWi-Fi設置、

隊舎の家具類の整備を、令和10年度末までに生活隊舎の家電等の整備を、令和14年度末までに生活隊舎の壁や床、勤務隊舎の改善・魅力化を進めていく。この施策は隊員のため、隊員による隊員のためのSeikinである。まずは各駐屯地に営内居室のモデルルームを設置する予定であり、隊員に改善後のイメージを見てもらった上で具体的な意見を頂き、ニーズに合致した施策として推進する。また生活・勤務環境の改善・魅力化は、募集等でも活用できるアピールポイントとなることから、定期的な部隊等の改善状況を情報発信し、隊員の士気高揚、誇りの保持に役立てていく。有益な人材確保に繋げていきたい。



方面最先任上級曹長会同 誇りと自信をもって

方面隊は5月28日・29日の両日、朝霞駐屯地に於いて方面最先任上級曹長会同を実施した。本会同は総監企図の徹底を図り、方面施策説明、部外講師による「コミュニケーション力向上教育」、各部隊からの情報発信及び最先任系統の討議により情報を共有するとともに、今後の業務の資



を得ることを目的とし、方面下各部隊から最先任、最先任等が参加した。会同の中で総監は、「皆の職は非常に重要な役割である。オープンマインドで誇りと自信をもって頑張ってもらいたい。後輩達は君達を見て、生き方としてカッコよくあれ。流石だね。」と賞賛した。また第3の柱としてネットワークで共有し、指揮官をしっかりと支えてもらいたい」と訓話で述べた。参加者からは「総監訓話での最先任、先任に対する熱い思いの他、指揮官との関係性や、自らの経験談を話していただき大変参考になった」「部外講師による教育では、Z世代の思考過程を知ることができ勉強になった」「各最先任との意見交換で各部隊の実情及び悩み等を共有することができた」との感想があった。会同を通じ、実際に顔を見て意見交換や討議を行い、懇親会を含めコミュニケーションをとることが非常に重要であると改めて感じる会同となった。

公演数を増やして実施 東音が定期演奏会



東部方面音楽隊は6月14日、和光市民文化センター「サンアシア大ホール」において、第83回定期演奏会を実施した。当日は一般応募者のほか、地元和光市内の各学校の吹奏楽部に所属する学生や招待者等が多く詰めかけた。演奏会は国歌「君が代」の四部合唱から幕開けし、前半は今年度の全日

振興公社との共催により毎年行っているもので、例年の1回公演から2回公演に公演数を増やして実施した。当日は一般応募者のほか、地元和光市内の各学校の吹奏楽部に所属する学生や招待者等が多く詰めかけた。演奏会は国歌「君が代」の四部合唱から幕開けし、前半は今年度の全日に向けて歩こう」という、歌ありジャズあり手拍子ありの親しみやすく、はつらつとした雰囲気と、興奮冷めやらぬ中、万雷の拍手とともに幕を閉じた。



改修された洗面所



陸上幕僚監部が構想中の営内イメージ



練馬駐屯地のモデルルーム（生活家電）



練馬駐屯地のモデルルーム（机周辺）

気象庁火山観測支援 円滑な観測に寄与



操縦士と調整する気象庁職員



機上観測の様子

方面隊は6月2日、気象庁が実施する浅間山及び草津白根山の機上観測を支援した。気象庁は火山の火口やその近傍に設置した観測機器からのデータを収集して、火山活動を常時監視しているほか、地上の観測では把握が困難な地形変化、噴出物、熱活動等の状況を把握するため、

自衛隊を含む関係機関のヘリコプターによる機上観測を全国各地の火山で実施しており、浅間山及び草津白根山の機上観測支援は気象庁からの依頼に基づき、東方が担任して定期的に支援している。浅間山は有史以降、幾度となく噴火を繰り返しており、近年も令和元年に2度の小規模噴火が発生し、たほか、現在も火山性地震や火山ガス放出量の増加が続く、山頂火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生する可能性がある状態が継続している。一方、草津白根山は平成30年に水蒸気噴火が発生したほか、火山性地震の増加や緩やかな地殻変動が見られ、今後、活動状況が高まる可能性があるとされている。今回の観測支援では気象庁職員が第12

ヘリコプター隊のUH-60に搭乗し、浅間山及び草津白根山の火口及び周辺の上空を周回しながら飛行する中、目視観測、カメラ・ビデオ撮影及び赤外線映像装置による熱映像撮影を実施した。当日は浅間山山頂付近にやや雲が見られたものの、観測に及ぼす影響はほとんどなく円滑な観測に寄与することができた。方面隊は今後も気象庁のニーズに応じた機上観測支援を継続し、連携を強化していく。

第1師団

大規模水害に備え連携強化 消防庁と連携し地域を守る 自治体

東京都北区において5月24日、東京消防庁・北区合同による総合水防訓練が実施された。



消防隊員や区職員と協力して土のうで防壁を築く隊員

本訓練は防災・減災の取組の一環として、梅雨や台風の時季を前にした

毎年5月の「水防月間」に合わせて行われるものであり、大規模な自然災害への対応能力の向上を目的としている。

訓練は大規模で強い台風が関東地方に接近し、荒川の水位が急上昇して氾濫の危険が高まったという想定の下、荒川流域における堤防決壊の恐れに加え、区内の道路が冠水し、住宅地では家屋への浸水被害が生じたほか、急傾斜地において土砂災害も発生、これにより一

部住民が逃げ遅れるという複合災害が発生したという厳しい状況で実施された。

1 普通は東京消防庁と連携し、土砂により倒壊した家屋からの要救助者の捜索・救出を支援するため重機を使用し、障害物を除去して安全な搬送ルート確保を行った。

また越水を防ぐため「積み土のう工法」と呼ばれる水防技術を用い、消防隊員や区職員と協力して土のうを運び、連携して防壁を築いた。

訓練を通じて東京消防庁、北区など関係機関が一体となった水防対策を実践し、災害時の連携態勢の確認、各機関の役割分担の明確化が図られ、総合的な水防活動能力の強化を図ることができた。

同じ国を守る仲間として NSS局長師団部隊研修



装備品の説明を受ける岡野NSS局長

師団は5月30日、国家安全保障局(NSS)の岡野局長の師団訪問に伴う部隊研修を企画し、首都防衛を担う第1師団の任務や役割、編成・装備の实情を国家安全保障の中核に携わる局長に直接理解していただく貴重な機会を得た。

研修の冒頭では司令部庁舎内において概況説明を行い、師団の任務、首都防衛師団としての隊務運営上の特性、また普通科連隊をはじめとする作戦基本部隊の編成や装備について説明を行った。

連隊および偵察戦闘大隊が装備する各種装備品について司令部庁舎前において説明し、それぞれが果たす作戦・戦闘上の役割について紹介した。

特に16式機動戦闘車の展示では、IR(赤外線)センサーの有効性について遠方隊舎の狙撃手を正確に標定する要領を実際に展示することで理解を深めていただいた。

部隊研修では隊員の処遇や生活・勤務環境の改善状況について管内を視察してもらい、日々の任務遂行にあたり、隊員一人一人が安心して任務に

取り組める環境整備に向けた取り組みを、現場の实情を交えて説明した。研修の最後に岡野NSS局長より隊員一同に対し「同じ国を守る仲間として、一緒に頑張ってください」との力強い激励の言葉をいただいた。

自衛隊 予備自衛官 実戦的なシナリオ訓練 任務遂行能力を強化

師団は6月6日から7日までの間、朝霞訓練場において令和7年度予備自衛官中央訓練の内、機能別訓練および総合訓練を担任した。



気管内挿管を行う技能公募予備自衛官

本訓練には全国の予備自衛官から、一般予備自衛官の成績優秀者及び技能公募予備自衛官のうち、法務・医療及び語学の特

抜され参加した。訓練では駐屯地警備を想定した実戦的なシナリオが組まれ、不審者及び避難民(外国人を含む)への対応、負傷者への応急処置など、現実在即した任務遂行能力の強化を図った。

訓練に参加した予備自衛官は、89式小銃、18式防弾ベストなど、常備自衛官と同様の個人装備を着用し、空包を使用する中で、冷静に判断し行動する難しさを実感したが、それ以上に「誰かを守る」という使命感を改めて強く感じた。災害や有事の際、自分のスキルが誰かの助けになると思うと、予備自衛官としての責任と誇りを感じる」と話す。

この訓練に看護師として参加した技能公募予備自衛官は「実際に装備を着用し、救護任務を経験できたのは、自身の技術を再確認する良い機会になった。限られた時間の中で、冷静に判断し行動する難しさを実感したが、それ以上に「誰かを守る」という使命感を改めて強く感じた。災害や有事の際、自分のスキルが誰かの助けになると思うと、予備自衛官としての責任と誇りを感じる」と話す。

前任上級曹長集合訓練を実施 地位と役割の再認識を図る

師団は6月2日から6日までの間、令和7年度第1回前任上級曹長集合訓練を実施した。



訓練には各部隊から前任上級曹長が参加し、座学やグループディスカッション(写真)、指導実習を通じて、部隊運営における前任上級曹長の立場を再認識する。

場や求められる資質、心構えについて学んだ。特に部下指導の要領、上級部隊との連携のあり方など、実務に直結する内容が中心となっており、参加者からは「実務に生かせる学びが得られた」との声が多く聞かれた。

本訓練を通じて、前任上級曹長としての自覚と誇りを新たにし、今後の部隊の中核を担う人材としての更なる資質向上が期待される。

頭号師団戦士の誉れ 7人の戦士をナンバーワンに認定



師団長から認定証を授与される戦士

師団は5月26日と6月5日に練馬駐屯地において師団ナンバーワン戦士認定式を実施した。

この行事は戦闘戦技への練成意欲と士気の高揚を

して、医師・看護師資格を有する技能公募予備自衛官が応急処置を行うなど、参加者は各自の専門性を生かし、緊張感を持って訓練に臨んでいた。

戦士であることの誇り 想いはすれ違っても



写真④左が西上3曹 写真⑤が父の西上准尉

体力検定(男性幹部曹の部)で頂点に立ったのが、第1後方支援連隊に所属する西上3曹である。

西上3曹の背景には、特筆すべき「自衛隊家系」がある。父は第1音楽隊の副隊長であり、第32普通科連隊では最先任上級曹長を務めた歴戦の士、兄も習志野の第一線部隊で活躍する強者の士。一方の西上3曹は中学卒業後、高等工科学校に進学、父や兄の影響ではなく、自らの意志でこの道を選んだ。

「普通の人生を歩んでほしかった」と語る父に、対し、その「普通」を選ばなかった息子、互いに想いはすれ違いつつも、根底に流れる精神は同じ戦士であることの誇りだ。

父や兄のように普通科ではなく施設科を選んだ。そして目指したのは「ナンバーワン」ではなく「健康と体力の維持」。

西上3曹に将来の夢を問えば「7月に生まれる子どものために頑張る」と言葉少なに語る。父は「次は射撃でナンバーワンを」と冗談めかすが、言葉の裏には、息子に対する深い期待と愛情が滲む。互いに少し照れながらも真剣に語り合う姿に、似た者親子の絆が垣間見えた。

硬派で無口な父と、己の道を静かに歩む息子。彼らのような戦士が、今日も日本の平和を静かに支えている。

第12旅団

複合的な脅威に対処

3個部隊の練度を評価

旅団は6月3日から9日までの間、大日原演習場、白河布引山演習場、関山演習場、相馬原演習場、相馬原駐屯地、新発

田駐屯地及び宇都宮駐屯地の広大な地域を使用し、第12後方支援隊、第12偵察戦闘大隊及び第12化学防護隊の3個部隊を

受閲部隊として、令和7年度第1次旅団訓練検閲及び空中機動訓練を行った。本訓練検閲は防衛にお

ける各職種部隊の作戦準備から実施に至る一連の行動について検するものであり、訓練検閲の実施

項として「指揮の要訣の実践（各級指揮官の状況判断）」「戦闘力の組織化」を掲げた。

訓練検閲は雨天多湿の過酷な環境で始まった。本作戦の終始にわたり、受閲部隊はクロクラによるシステム通信（総合状況図、クロノロジー、メ

ル）、AM通信、B・GAN等の通信手段を使用し部隊の現況及び敵の状況を逐次把握した。後支隊は整備、輸送、補給、衛生といった各機能を有機的に組織化して、自衛及び空中機動に係る行動を演練した。また民間インフラ等を活用して広域にわたる兵站支援を実施するとともに、東北自動車道上河内SAで後退する偵戦大のMCVに対する路傍給油を行う等、作戦部隊の戦闘力の組織化に寄与すべく各種後方支援機能を發揮した。

偵戦大は関山、大日原、白河布引山演習場等の広域に展開し、スカイレンジャー、MCVの能力を最大限に駆使することもにリーダー、斥候活動に優れるヘリコプター攻撃及びGFに対しては、戦闘中隊による、積極的な機動打撃、継続的な砲迫火力を發揮して、これらを破碎した。

化防隊は対特殊武器戦調整所（CBRNCC）の運営及び空中機動に係る行動を演練した。相馬

原駐屯地に展開し敵の化学攻撃に対し、人員・装備の汚染状況を速やかに解明し汚染された人員・装備品並びに地域除染等を行い、部隊間の連携強化や作戦遂行能力の底上げを図った。

その他共通として国民保護、被拘束者の取扱い、UAV・ドローン対処の他、サイバー攻撃・電子戦対処など新領域を含めた複合的な脅威に対応する実戦的な状況下で演練した。複雑化する戦場環境において即応性と持続性を兼ね備えた防衛態勢の構築を促進した。



汚染地域を除染活動する隊員



スカイレンジャー発進



夜間に横転した車両を回収する後支隊



上河内SAで路傍給油するMCV



6機同時に飛び立つCH-47



華麗な6機による編隊飛行

上州に舞う6羽の荒鷲

6年ぶり6機編隊飛行

第12ヘリコプター隊は5月23日相馬原飛行場において、6機編隊での飛行訓練を行った。6機での編隊飛行は6年ぶりであり、本訓練は編隊飛行能力の向上及び多数機運用の重要性を隊員に認識させ隊員の士気・矜持の向上を図ることを目的に行われた。

晴天の中、飛行場エプロン地区から順次飛び立ち、2飛長（基準となる先頭のヘリコプター）のコントロールの下、華麗な編隊飛行を実施して12ヘリ隊の高い練度を証明した。

生活環境の改善

2100 高崎駅発

休日の夜間シャトルバス運行の試行



乗車人員を掌握する業務隊

相馬原駐屯地業務隊は生活・勤務環境の改善の一つとして、隊員等が休暇を満喫できるよう、週末等におけるシャトルバス運行（試行）を本年5月より開始した。内容は、毎日曜日（3連休等の場合は最終日）の民間のバスが終了した後の21時に高崎駅から駐屯地まで業務隊がマイクロバスを運行するものである。休日の高崎駅発の民間バスの最終便が19時台と早く隊員アンケートでシャトルバス運行の要望が一定数存在したことから開始したところ、利用者も多く、利用した隊員からは公共交通機関の本数が少なく、最終便が早い時間帯で終了してしまつたため、シャトルバスを運行してもらつと時間を有効活用することができ、助かる」等の意見があった。

業務隊長は隊員のニーズを把握し、「部隊のため」「隊員のため」を念頭に、創意工夫をしながら生活勤務環境の改善を図つていく。

自衛生ラストスパート

第2普通科連隊、第13普通科連隊、第30普通科連隊及び第12後方支援隊の各部隊が担任、実施していた自衛官候補生課程は、6月下旬に教育を修了した。写真は教育終盤の様子であり同期と力を合わせて過酷な彼らの表情は、日に日にたくましくなつていった。彼らは更なるステージである各特技課程教育に参加するため、それぞれの駐屯地へ巣立つて行った。



射撃検定 (30普連)



体力検定 (12後支)



格闘錬成 (2普連)



25km行軍 (13普連)

東部方面混成団

芽吹いた若い意志 総合訓練を終え前期教育終了

女性自衛官教育隊・第117教育大隊において約3カ月間にわたり実施されていた新隊員教育が修了した。

総合訓練で新隊員は、それまで培った自衛官と必要な知識・技能及び体力・気力を存分に発揮し、実際の地形において支援射撃や早駆け、ほふく前進等の一連の動作に各人が全力をもって取り組んだ。

新隊員は全ての訓練を終えて迎えた修了式で凛々しく立派に成長した姿を披露し、家族や大切な人を安心させた。

互いに慣れない団体生活の中で苦楽を共にし、訓練に励み、硬い絆で結ばれた同期との別れを惜しむ目には涙もあったが、新たなステージに向かう隊員の背中はどこか誇らしげで頼もしさがあり、互いに健闘を称えながら7月1日付で全国の特技教育担任部隊へ異動した。

特技教育では各職種や特技の専門的な知識と技能を学ぶ。部隊に配属後、各人はそれぞれの現場で活躍することになるが、同期との再会の時を楽しみに、自衛官としての道を着実に歩みだした。



東富士演習場で攻撃前進をする男性新隊員



ほふく前進で目標に近づく女性新隊員



執行者に敬礼をする男性新隊員



教官助教と記念撮影をする女性新隊員

48普連 目指せ即応予備自衛官 初回訓練が始まる

第48普通科連隊は今年度第1回目の一般公募予備自衛官に対する特技訓練を担任実施した。

本訓練は一般公募予備自として採用された自衛官未経験者が「即応予備



初回の訓練として基礎的な救急法や武器訓練及び基本教練(写真)などを実施し、陸上自衛官に共通する基礎動作を練成した。実弾射撃に向けた射撃予習では、教官指導の下、姿勢、照準及び撃発の動作を重点的に演練し、各人の練度を向上した。

のりものフェスタに参加

第31普通科連隊は6月1日、よこすかYYのりものフェスタ2025において装備品展示を実施した。



記念撮影をする来場者

本イベントはJR東日本、京急電鉄による鉄道をはじめ、神奈川県警の車両や海上自衛隊の艦艇など、乗り物を通して横須賀を楽しくんでもらうイベントで、陸上自衛隊として31普連からは82式指揮通信車(CCV)の展示を実施し、記念撮影など多くの来場者に楽しんでもらった。

総監部人事部募集課 募集ニュース サマキャンを開催

防衛省は7月1日から8月31日までの間、3自衛隊協同の全国統一による採用広報施策である陸海空サマ・フレンドシップキャンペーン(通称「サマキャン」)を開催している。

サマキャンは学生の夏休み期間に合わせて陸海空自衛隊が一体となってイベント等のさまざまな機会を設けて自衛隊の「実情」「魅力」「親しみやすさ」を発信するものである。

方面隊はサマキャン開始に先立ち東方面内の部隊長等の参加の下「サマキャンキックオフVTC」を実施し、サマキャンに向けて認識の統一を図った。

キャンペーン開始初日の7月1日、各地本は主要な駅、商業施設等において「サマキャン」を表示した車両を活用し、市街地走行にてキャンペーンの周知を実施した。

また全期間を通じ、多くの方々に駐屯地納涼祭・部隊見学などさまざまなイベントに参加していただき、自衛隊の魅力伝えていく。

#自衛隊サマキャン はじまります。

#自衛隊サマキャン とは?

正式名称は「陸海空自衛隊サマ・フレンドシップキャンペーン」と言います。

今年も陸・海・空自衛隊のリアルな魅力を多くの方に体感して頂きたい!との思いから、7月1日から8月31日の夏休みシーズンにサマキャンを開催します。

期間中は、日本各地の自衛隊の基地・駐屯地や、街中等でイベントを行います。

対象となるイベントは、こちらのロゴが目印

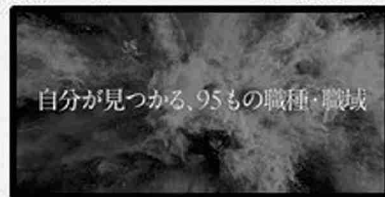
全国各地でのイベントのほか、キャンペーンの一環として様々な企画を実施します。



各イベント会場等では、ノベルティグッズが貰えるかも

R7 陸海空自衛隊 ブランドムービー7月1日より公開

新たな陸海空自衛隊のブランドムービーが遂に完成!
「自分が見つかる、95もの職種・職域」
気になる方は、YouTubeチャンネルをチェック



具体的なイベントの詳細は、お近くの自衛隊地方協力本部HPをご確認いただくか、又は、直接地方協力本部にお問い合わせください。

CTS

師団指揮所訓練センター訓練を支援 部隊の練度向上に最大限寄与



指揮所訓練統裁支援中のCTS隊員

東部方面指揮所訓練支援隊は5月16日から23日までの間、第1師団が実施した第1回師団指揮所訓練センター訓練を支援した。

本訓練は指揮所訓練統裁支援サーブیسを活用し、各部隊の指揮幕僚活動を演練して、各級指揮官の状況判断及び戦術力の組織化に係る練度向上を図り、作戦遂行能力の向上の資とすることを目的として行われた。訓練開始にあたり統裁官はCDO（領域横断作戦）戦闘下において、勝ち目を追及した戦闘団長の戦い方を具現せよ、「戦場管理を徹底し、衛生及び兵站の優越を獲得せよ」一師団司令部・第32戦闘団・増強第5普通科連隊（34普通）の指揮幕僚活動の練成の場として最大限活用せよ」を要望し、1師団主力と戦闘団及び対抗部隊（34普通）の自由統裁方式で実施された。

訓練間においては統裁部・訓練部隊と密接に連携し、指揮所訓練統裁支援サーブイスの操作実習、入力統制及び研究会資料の収集・提供等を実施した。特に6月下旬に行われたHTC（北海道訓練センター）に向けた32戦闘団の指揮幕僚活動に係る能力の向上及び計画の具体化に寄与した。

隊は引き続き訓練部隊のニーズに最大限に応えつつ訓練支援の質的向上を図り強靱な東部方面隊の創造に最大限寄与する。

2高群

レジリエンス向上・ドローン対処を重視 高射中隊訓練検閲を実施



レジリエンス向上施策（首都の特性に応じた偽装）

第2高射特科群は6月10日から12日までの間、朝霞駐屯地（朝霞高射教場）において、第1回高射中隊訓練検閲を実施した。

本訓練検閲は第335高射中隊及び第337高射中隊に対し、首都防空における高射中隊の行動について、その練度を評価・判定するとともに、作戦遂行能力を向上させることを目的として実施された。

各中隊はレジリエンス（強靱性・抗堪性・任務の継続）向上及びドローン対処を重視して本訓練検閲に臨み、レジリエンス向上においては一つの施策としてフルシートやカラーコーン等を活用して首都の特性に応じた偽装を実施して企図を秘匿した。ドローン対処においては対応マニュアルを作成し、不意襲撃するドローンに対して迅速・適切に対処した。

本訓練検閲において各中隊は、状況終了の最後まで真剣に取り組み、首都政経中枢等を対空掩護できる練度にあるとの評価を受けた。

2高群は本訓練検閲の成果を、今後の教育訓練の資とするともに、引き続き強靱な東部方面隊の創造に寄与するため、日々の訓練に邁進する所存である。

衛生隊

衛生員練度維持訓練で 救命率の向上を図る



輸液作成（点滴の準備）



受傷者の適時の観察

東部方面衛生隊は4月14日から18日までの間、朝霞駐屯地において第1回第一線救護衛生員練度維持訓練を実施した。

本訓練は准看護師及び救急救命士の両方の資格を保有し、かつ衛生学校で実施される第一線救護衛生員認定試験を合格した特技保有者が、2年一度その練度を維持して

いるか確認・判定する訓練である。

本訓練で認定を受けた者は引き続き2年間「緊急救命行為（輪状甲狀腺帯切開・穿孔、静脈路又は骨髄路からの輸液等、第一線救護員のみが実施できる処置）」を実行できる制度である。

訓練実施にあたり、短時間で効率よく識能を維持向上してもらうため、教育者側が綿密な訓練予行を行うとともに、試験当日に起こりうるであろう各種問題を案出し、被教育者が万全な態勢で受験できるように準備した。訓練参加者は主要演練項目である「緊急救命行為」に加え、基本である「敵を意識した行動」「観察」「処置」等を再確認す

シ通群

部隊の任務遂行能力を向上 第1回大隊訓練を実施



大隊炊事競技会



遊撃対処（中隊練成訓練）



濃霧の中の有線構成（中隊練成訓練）

東部方面システム通信群隷下部隊である第105指揮所通信大隊は6月2日から13日までの間、「部隊の基本的行動」「隊員の基礎動作」「ユーザー意識の醸成」「炊事能力の向上」を主要演練項目として実施した。

本訓練は大隊統制訓練として中隊統制訓練及び小隊検閲を実施し、隊員個々の能力を向上させるとともに、部隊の任務遂行能力を向上させた。

大隊炊事競技会では大隊隷下3個部隊が、部隊行動による隊員の疲労度等を考慮し、野外炊具を使用して課題メニューの回鍋肉・豚汁を部隊毎に味付け等を創意工夫して調理した。

審査は大隊長を長として最上級曹長及び大隊本部幕僚が、調理間における「実員指揮」「衛生管理」「安全管理」と、実食における味、食感等について評価し、その結果、大隊本部隊が第1位となった。

中隊練成訓練及び小隊検閲においては、降雨・濃霧の気象条件の中、各隊員は個々及び部隊の任

訓練所感

東部方面音楽隊
柳原 将也3等陸曹



定期演奏会を終えて

6月14日、東部方面音楽隊第83回定期演奏会が行われました。

本演奏会は地域の皆様に自衛隊の活動を知っていただき、音楽を通じてより身近に感じてもらうことを目的に2回行われています。

今回私がコンサートマスターという任務を与えられて初めてとなる演奏会でした。

コンサートマスターには指揮者の意図を汲み取り、奏者の意見も集め、指揮者をサポートして、より良い音楽行動による隊員の疲労度等を考慮し、野外炊具を使用して課題メニューの回鍋肉・豚汁を部隊毎に味付け等を創意工夫して調理した。

審査は大隊長を長として最上級曹長及び大隊本部幕僚が、調理間における「実員指揮」「衛生管理」「安全管理」と、実食における味、食感等について評価し、その結果、大隊本部隊が第1位となった。

中隊練成訓練及び小隊検閲においては、降雨・濃霧の気象条件の中、各隊員は個々及び部隊の任

へのオマージュ」の続編で、前作では自然災害の恐ろしさが、本作では平和への尊さが音楽で表現されており、祈りや復興への思いが強く感じられました。能登半島地震によって多くの被害を受けた被災地へ赴き慰問演奏を実施した時のことを鮮明に思い出し、演奏しながら涙が溢れそうになりました。

今回は第1音楽隊と第12音楽隊からも支援を受け、東部方面音楽隊で一致団結した演奏をお届けすることができ、盛大な拍手とお客様の笑顔を間近で感じることができました。

これからもコンサートマスターとしての技術を高め、音楽を通じて国防を担う自衛隊音楽隊の意義・役割を自覚し平和への願いやメッセージを伝えられるよう、精進してまいります。

新潟地本

新潟中心街を空中散歩

CH・47Jで体験搭乗



CH-47Jに乗り込む30人の募集対象者等

自衛隊新潟地方協力本部 隊新潟分屯基地において
部は5月24日、航空自衛隊 CH-47J輸送ヘリコプ

ターの体験搭乗を行っ
た。

これは入間ヘリコプター
空輸隊(航空自衛隊入
間基地)の協力を得て行
ったもので、自衛隊に興
味を持つ募集対象者や保
護者、援護協力者ら30人
が参加した。

参加者はまず集合場所
である体育館でパイロッ
トからヘリコプターの役
割や説明を聞き、搭乗す
る際の注意事項や安全教
育を受け知識を深めた。
その後、格納庫へ移動し、
搭乗手続きを済ませドッ

グタクと呼ばれる認識票
を受け取ると、搭乗への
期待が一気に高まった。
隊員の誘導でエプロン地
区に進入し搭乗口に向か
う際、参加者は想像以上
のエンジン音の大きさを
プロペラの回転によって
吹き下ろされる、ダウン
ウォッシュの強さに驚い
た様子であった。飛行は
新潟市の中心街を一周す
るルートで、参加者は普
段とは違う目線から眺め
る青い日本海や中心街の
景観に心を奪われてい
た。窓から写真を撮った
り、自宅の位置を確認す
る様子も見られたほか、
貴重なコックピットも間
近で見学するなど、約20
分間の空の旅を存分に満
喫した。

搭乗後には格納庫で救
難隊員による説明を受け
ながら救難装備品やUH
-60J、U-125Aの
展示を順に見学し、最後
にヘリコプター隊への応
援メッセージや感想など
を寄せ書きに書き込んで
体験搭乗を終了した。

参加者は「今日はヘリ
コプターに乗るのを楽し
みに来ましたが、救助ヘ
リや捜索機まで見せてい
ただいて、航空自衛隊を
より深く知ることができ
ました」と内容の濃いイ
ログラムに満足した表情
を見せた。

新潟地本は今後も他部
隊と連携し魅力的な広報
活動を行い、自衛隊への
親近感の醸成を図ってい
く。

熱狂冷めやらぬ新潟県民
約1万3千人が来場し、
お祝いムードで盛り上が
りを見せていた。

第12音楽隊による野外
コンサートでは、Mrs.
GREEN APPLEや嵐のメ
ドレーを含む7曲の演奏が
午前午後と2回行われ、
会場いっぱい集まった
観客を魅了した。演奏後、
「とても素晴らしい演奏
でした!知っている曲が
多かったのもとても楽し
かったです!」「感動して
鳥肌が立ちました。来年
も来て欲しいです」等の
感想が聞かれた。

また女性パイロットが
自衛隊について説明する
場面では「女性パイロッ
トってすごいですね」と
経験談等に聞き入る姿が
見られた。

オリオン通りでは、制
服試着のほか中央即応連
隊、東部方面特科連隊第
2大隊、航空学校宇都宮
校、第12高射特科隊及び
航空自衛隊百里基地第7
基地防空隊の支援を受
け、軽装甲機動車、96式
装甲車、輸送防護車
など計11両の自衛隊車両
がアーケード街の道いっ
ぱいに並んで展示され、
来場者からは「商店街に
自衛隊車両がたくさん並
んでいてびっくりしまし
た!すごい圧巻ですね
!」「こんなに色々な自
衛隊車両を初めて見まし
た!いつも国を守ってく
れてありがとうございま
す!」と好評を得ていた。
栃木地本は今後も広報
イベントを通じ、地域の
皆様に自衛隊を身近に感
じていただけるよう活動
していくとともに自衛隊
への理解の促進及び募集
広報に邁進していく。

群馬地本

中学生が職場体験

社会的自立心を養う

自衛隊群馬地方協力本
部高崎地域事務所は5月
20日・21日の両日、高崎
市立新町中学校(男子7
人)が実施する職場体験
学習「やるベンチャー」

を支援した。
「やるベンチャー」と
は、高崎市の中学生在が実
施する、地域社会の中で
自分らしい生き方を見つ
ける為に、自ら考え、社

会的・職業的自立心を養
うことを目的に行ってい
るものである。

当初、生徒は「気をつ
け・敬礼・回れ右」の各
動作を体験した。回れ右
の要領が学校で習ったも
のと違い戸惑いがあった
が、すぐに要領を習得し
号令に正しく対応する事
ができていた。また生徒
は敬礼の動作を習得した
喜びから、駐屯地内です
れ違う自衛官に対して積
極的に敬礼を行っていた。

2日目は高崎地域事務
所において、広報イベン
ト等で配布するオリシナ
ル缶バッジ作りを体験し

た。基本教練で覚えた敬
礼の動作を撮影し、それ
ぞれのオリジナル缶バッ
ジを作成した。初めての
缶バッジ製作機に興味津
津で終始笑顔が絶えな
かった。

自衛隊の体験を終えた
生徒からは「隊員さんの
ご飯を食べるスピードが
早くてビックリした」「明
日学校に行ったら先生に
オリシナル缶バッジを自
慢します」「記念に貰った
ドッグタグは宝物にしま
す」「体験学習先を自衛隊
にして良かった」などの
感想が聞かれた。

今回の「やるベンチャ
ー」は、生徒に自衛隊の
活動等を知ってもらうき
っかけとなり、とても有
意義な体験となった。
今後とも地本一丸とな
り、あらゆる機会を通じ
て自衛隊に対する理解を
少しでも深めてもらえる
よう一層の努力をしてい
きたい。

また南極の水に触れる
ことのできる体験コーナ
ーでは、終日行列が絶え
ず、子供から大人まで幅
広い年齢層の方々の興味
を集めていた。

横須賀地域事務所は今
後も地域や部隊との連携
を深め、募集広報活動に
まい進していく。

ある!ある!自衛隊

byともえ



「やるベンチャー」と
は、高崎市の中学生在が実
施する、地域社会の中で
自分らしい生き方を見つ
ける為に、自ら考え、社

会的・職業的自立心を養
うことを目的に行ってい
るものである。

当初、生徒は「気をつ
け・敬礼・回れ右」の各
動作を体験した。回れ右
の要領が学校で習ったも
のと違い戸惑いがあった
が、すぐに要領を習得し
号令に正しく対応する事
ができていた。また生徒
は敬礼の動作を習得した
喜びから、駐屯地内です
れ違う自衛官に対して積
極的に敬礼を行っていた。

2日目は高崎地域事務
所において、広報イベン
ト等で配布するオリシナ
ル缶バッジ作りを体験し

た。基本教練で覚えた敬
礼の動作を撮影し、それ
ぞれのオリジナル缶バッ
ジを作成した。初めての
缶バッジ製作機に興味津
津で終始笑顔が絶えな
かった。

自衛隊の体験を終えた
生徒からは「隊員さんの
ご飯を食べるスピードが
早くてビックリした」「明
日学校に行ったら先生に
オリシナル缶バッジを自
慢します」「記念に貰った
ドッグタグは宝物にしま
す」「体験学習先を自衛隊
にして良かった」などの
感想が聞かれた。

今回の「やるベンチャ
ー」は、生徒に自衛隊の
活動等を知ってもらうき
っかけとなり、とても有
意義な体験となった。
今後とも地本一丸とな
り、あらゆる機会を通じ
て自衛隊に対する理解を
少しでも深めてもらえる
よう一層の努力をしてい
きたい。

また南極の水に触れる
ことのできる体験コーナ
ーでは、終日行列が絶え
ず、子供から大人まで幅
広い年齢層の方々の興味
を集めていた。

横須賀地域事務所は今
後も地域や部隊との連携
を深め、募集広報活動に
まい進していく。

栃木地本

圧巻の装備品展示でPR バスケットチームのパレードも



中央即応連隊による輸送防護車の展示



優勝パレードを出迎える
栃木地本キャラクター「りく」

当日は栃木県のプロバ
スケートホール「宇都宮
25」を開催した。20
14年から続く栃木地本
都宮プレックス」の優勝
パレードに約5万人が集
まり、イベント会場にも

また女性パイロットが
自衛隊について説明する
場面では「女性パイロッ
トってすごいですね」と
経験談等に聞き入る姿が
見られた。

オリオン通りでは、制
服試着のほか中央即応連
隊、東部方面特科連隊第
2大隊、航空学校宇都宮
校、第12高射特科隊及び
航空自衛隊百里基地第7

神奈川地本

1万人超の来場者に広報活動 海上自衛隊の体験乗船も



特別機動船と水中処分艇の体験乗船



31普連による82式指揮通信車の展示

自衛隊神奈川地方協力
本部横須賀地域事務所は
園周辺及び横須賀地方総
すかYYのりものフェス

6月1日、ヴェルニー公
監部で開催された「よこ

タ2025」において広
報活動を実施した。

当日は天候に恵まれ、
練習艦「かしま」や「し
まかぜ」及び潜水艦の一
般公開、陸上自衛隊第31
普通科連隊による82式指
揮通信車の展示、子供用
ミニ制服試着コーナーな
どが実施され、1万人を
超える来場者でにぎわっ
た。特に特別機動船と水
中処分艇の体験乗船は大
人気で、抽選に当選した
来場者は、そのスピード
感と船から見る港の景色
を楽しんでいた。

横須賀地域事務所は今
後も地域や部隊との連携
を深め、募集広報活動に
まい進していく。

